

教育
広報

いわき

編集責任者
福島県教育庁
いわき教育事務所
発行責任者
塚本 英樹

「〇〇にとって」の視点を大切に

いわき教育事務所長
塚本 英樹



同じ社会科の気の置けない仲間同士での話です。その仲間とは時々集まっては昔話に花が咲き、時には授業論に及ぶこともあって、毎回とても心地良いひとときを過ごします。数年前のその日もかつて行った研究授業のネタから始まり、生徒に歴史学習の面白さを伝えるにはと話が盛り上がっていました。それぞれが一通り持論を語り終えると、A先生が「生徒のために用意した教材も生徒にとってどうなのかが大切だ！」と発したのです。予想外の指摘に、私自身「はっ」とさせられたことを覚えています。

さて、私たちは今、コロナ禍という前例のない困難な状況において、感染防止策と子供たちの学びの保障に力を注いでいます。一方で、中教審答申で示されたように、今後、急激に変化する時代の中で、子供たちが自分のよさや可能性を認識し、他と協働しながら社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓いていくことができる資質・能力の育成に取り組まなければなりません。そんな私たちが大

切にしたいことは、「〇〇にとって」の視点です。授業においては、「子供たちのために」という教師側の視点のみでは空回りしかねず、時にはやらされ感をもたらします。「子供たちのために」様々に工夫した手法であっても、「子供たちにとって」の視点で吟味してこそ、子供たちの主体的な学びを生み、資質・能力の育成につながると思います。学校行事など他の教育活動も同様で、さらには、教育行政で展開する事業等もまた然りです。

今年度はコロナ禍での事業推進となりましたが、各学校や関係機関等のご協力に感謝いたします。今後も、「子供たちにとって、教職員にとって、学校にとって」の視点、すなわち、それぞれの実態やニーズを大切に事業推進に努めていきたいと思っています。

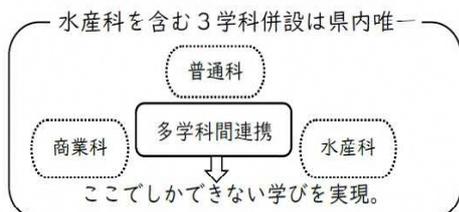
結びに、仲間同士が集い、語り合い、心地良いひとときを過ごすことができる日が早く訪れますように！



福島県立

小名浜海星高等学校 2021年(令和3年)4月、いよいよ開校！

～明治以来の伝統校と日本屈指の海洋教育拠点校が統合、新たなステージへ～

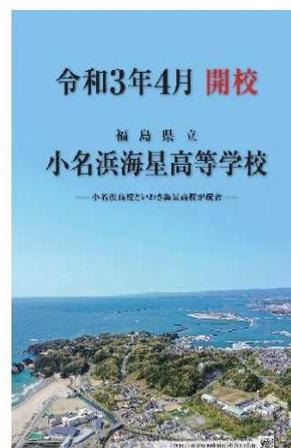


職業教育推進校に位置づけ

進学・就職の両面に対応し、
地域産業を支える核となる人材を育成。

専攻科(水産科)の設置も県内唯一
産業界の即戦力・プロフェッショナルを育成。

©「小名浜海星高校ホームページ」でも情報発信中です。



新しい生活様式の中で

令和2年度は、世界的な新型コロナウイルス感染症の流行により、東京オリンピック・パラリンピック2020が延期、全国の学校で感染拡大に伴う臨時休業が実施されるなど、様々な制限を余儀なくされました。

各学校においては、子供たちへの保健・安全指導、日々の消毒作業、人権教育の充実、感染防止に努めながらの授業実施等、学校での新しい生活様式を模索しながらも、これまで通りの温かな教育活動が進められていました。

いわき教育事務所でも、計画していた事業について、新しい生活様式に基づき、感染対策を行いながら、「子供たちのためにできること、子供たちにとって必要なことは何か」を第一に考えながら取り組んできました。



NEW ふくしまの学校キラリ学力向上プロジェクト

「教科担任・タテ持ち推進校」の実践（平一小・小名浜一小・小川中・植田東中）

「教科担任・タテ持ち推進校」では、児童生徒一人一人の学力向上を目指すことを目的とし、そのためのアプローチとして、小学校では教科担任制を、中学校では教科タテ持ち制を導入して教育実践を進めています。推進役の「学習指導コーディネーター」を中心に、授業の質的改善や教員同士の学び合う環境の構築等の実践を重ね、11月に授業公開を行いました。

【平一小】

- 学校全体で国語科の研究に取り組み、5・6年生の4学級では国語科の教科担任による授業を実施しました。単元の内容や児童の実態に応じて、学級担任と連携してTTによる指導も行っています。
- 11月20日(金)には全学年6学級で国語科の授業を公開し、問いの持たせ方や話合いのコーディネート工夫、「全文シート」を用いた教材研究の工夫などについて、これまでの研究実践を発表しました。

【小名浜一小】

- 学習指導コーディネーターが高学年の社会科の授業を教科担任で行い、外国語推進リーダーが高学年の外国語科の授業を教科担任で行いました。また、キラリ校加配教員が中学年の社会科や書写等の授業を担当しました。
- 11月13日(金)には5年生の外国語科と6年生の社会科の授業を公開し、教科担任制を取り入れた成果と課題について参観者と協議し共有することができました。

【小川中】

- 国語科、数学科、理科、社会科の4教科において、いずれの教科も2名の教員で2学年をタテ持ちで担当しています。教科の異なる教員2～3名でチームを作り互見授業を実施し、授業改善につなげています。
- 11月9日(月)には1年社会科と2年数学科の授業を公開し、「小川中学校授業スタンダード」を活用した授業実践、学力向上に向けた共通実践、タテ持ち授業の成果・改善点等について発表をしました。

【植田東中】

- 英語科において3名の教員が1～3学年をタテ持ちで担当し、教科部会を時間割に位置づけて実践を進めています。また、国語科では、タテ持ちではないものの共通実践事項を設定し、授業実践を行っています。
- 11月12日(木)には英語科で3授業、国語科で2授業を公開し、それぞれの教科における継続的な語彙指導、音読指導の充実などの共通実践やタテ持ち授業の成果・課題等について発表をしました。

福島県教育委員会ホームページの『ふくしまの学校“キラリ”「学びの保障」応援サイト』では、いわき教育事務所のコーナーで、「医療従事者へ感謝の気持ちを伝えよう 万羽鶴・感謝の桜プロジェクト(内郷一中・御厩小・高坂小・綴小)」「いわき市中学校体育大会ポッチャ競技大会」について掲載しています。ぜひご覧ください。
県教委HP <https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/70056a/>

未来へはばだけ！イノベーション人材育成事業

ふくしまスーパーサイエンス理科校

理科コアティーチャーとして、昨年度に引き続き、いわき市立泉北小学校の石塚美千留教諭、いわき市立小川中学校の渡邊君庸教諭が、計3回授業を公開しました。小学校では第5学年「物のとけ方」、中学校では第1学年「身のまわりの物質」の単元を通して、小・中学校の接続を意識した授業が展開されました。新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、参集範囲を限定した研修会となりましたが、参観者による熱心な協議が行われ、実りの多い研修会となりました。

また、上記2校では併せて「スーパーサイエンス講座」を開催しました。外部講師を招き、小学校では「エネルギーに関する講座」、中学校では「品質改良・バイオテクノロジーに関する講座」が展開されました。次代を生きる子供たちが身近な生活や地球環境について学び、新たな夢や希望を抱ききっかけとなりました。



ふくしまスーパーサイエンス算数・数学校

算数・数学科コアティーチャーとして昨年度に引き続き、いわき市立平第四小学校の迫田邦斗教諭、いわき市立泉中学校の木村貴浩教諭が各3回ずつ授業を公開しました。教材の本質を的確に捉え、子供の問いやつぶやきを丁寧に取り上げながら授業を進める展開に授業改善に向けて考えるべきポイントが多く含まれていました。参観者は限定されましたが、コアティーチャーと共に充実した事後研究会が実施され、学びの深い研修会となりました。

12月に公開した算数の授業では、第5学年「正多角形と円周の長さ」の単元でプログラミング学習を行いました（「Scratch」を使用）。正三角形を思いどおりに作図できず、「どうして…？」とつぶやく子供たちに、「何が原因かな？」と問い直す授業者。試行錯誤しながらプログラムを組み重ね、作図できた喜びを表す子供たちの姿に、「プログラミング的思考」の高まりを感じた瞬間でした。



◆◆◆読書活動支援者育成事業◆◆◆

◎読書活動支援者育成事業いわき地区研修

学校や図書館等地域で活躍できる読書ボランティアの人材育成や資質向上を目的として11月6日(金)に実施しました。3名の講師を招聘し、それぞれの視点から読書についてのお話をいただき、非常に充実した研修となりました。主な内容は以下のとおりです。

- ・TUF 奥秋直人氏 『語り方』
- ・磐城高校 長谷部裕美氏 『実践発表』
- ・東北大学 榎浩平氏 『脳科学』



◎ピプリオバトル

相双教育事務所及びいわき市教育委員会と連携し、10月6日(土)に「浜通り地区予選会」を実施しました。小・中学校学校司書の協力を得て運営し、新型コロナウイルス感染症対策を講じながらスムーズに進めることができました。発表者8名のうち、優勝者1名が福島県大会へ出場する大会です。

例年であれば、県大会優勝者が出場権を得る全国大会は、今年度は残念ながら中止という状況ではありましたが、11月28日(土)に「福島県大会」が行われ、浜通り代表の関根海人さん(磐城高校)が見事優勝しました。

おめでとうございます。



◆◆◆家庭教育応援プロジェクト◆◆◆

今年度は「コロナ禍の今、どのような家庭教育支援が必要なのか」を模索しながら、これまでは親子で一緒に活動したり講演を聞いたりする活動でしたが、例年とは形を変えて進めることにしました。

**【錦小学校】
「コーディネーション運動を楽しもう」**

三密を避けるために、子供たちと講師のいわきFC阿部隼人氏とで行いました。子供たちは、様々な運動をしながら、笑顔あふれる充実した時間を過ごしました。

保護者には、実施後に、学校だよりやホームページを通して内容等をお知らせし、啓発を図りました。



**【高野小学校】
「子供たちのネットメディア利用と危険性について」**

メディアに頼りすぎるとい実態から、親と子の関わり方について、講師の医療創生大学教授、中尾剛氏を招き、コミュニケーションの取り方について、保護者や教職員を対象に講演会を開催しました。保護者がこの内容を家庭に持ち帰り、親子共通の話題にしたり、今後の家庭生活の見直しが図られたりすることが期待されます。



各種表彰、おめでとうございます



- 学校教育功労者表彰
平第一小学校長 水野 達雄 先生
平第一中学校長 西内 英理 先生
- 文部科学大臣優秀教職員表彰
小名浜東小学校 教諭 一ノ瀬 由美 先生
四倉高等学校 教諭 三瓶 容子 先生
- 福島県教育・文化特別功績表彰
優秀教職員の部
湯本第一中学校 教諭 澤出 小百合 先生
- 緑化推進運動功労者内閣総理大臣表彰
田人小学校
- 福島県教職員研究論文表彰
奨励賞 高坂小学校 教諭 田島 裕司 先生
- 磐城農業高等学校
主任実習講師 阿部 和宏 先生
- 文部科学省学校給食功労者表彰
小名浜第一小学校 栄養教諭 赤津 由紀子 先生
- 学校保健功労者表彰
(元)平第三小学校学校医 児山 孝 様
植田小学校薬剤師 三瓶 几典 様

総務担当より

扶養親族における所得額の確認について(扶養手当関係)

扶養親族が新たに就職した場合や雇用契約の変更があった場合等には、その収入金額が「所得限度額」以上でないことを、雇用契約書や給与等支払証明書等により確認する必要があります。

また、月給や時給などが定まっていない等、収入が不安定な場合には、収入実績の3か月の平均額により、収入状況を判断することになります。

なお、雇用契約の変更がなくても、3か月連続して月毎の収入が「所得限度額」以上であると、雇用契約に変更があったとみなされ、扶養認定の要件を欠くこととなりますので、留意してください。

＜所得限度額＞

- (1) 月毎に支払われる給与
→ 月額 108,334円
- (2) 年金、事業所得等
→ 年額 1,300,000円



管理担当より

「風通しのよい職場をみんなの力で」

2020年6月19日に「教職員の懲戒処分に関する規準」が一部改正されました。パワー・ハラスメント(パワハラ)に関する規準が新設され、職場におけるハラスメント行為の未然防止とその根絶を図ることとしました。

パワー・ハラスメント：職務に関する優越的な関係を背景に、業務上必要かつ相当な範囲を超えた言動	
(ア) パワー・ハラスメントを行ったことにより、相手が強度の心的ストレスの重積による精神疾患に罹患した場合	⇒免職又は停職又は減給
(イ) パワー・ハラスメントを行ったことについて指導、注意等を受けたにもかかわらず、パワー・ハラスメントを繰り返した場合	⇒停職又は減給
(ウ) パワー・ハラスメントを行ったことにより、相手に著しい精神的又は身体的な苦痛を与えた場合	⇒停職又は減給又は戒告

パワハラを行うのは上司だけとは限りません。自分の言動を振り返り風通しのよい楽しい職場をみんなで作っていきましょう。



「講師として勤務できる方をご紹介します！」

いわき市内の公立小学校、中学校、県立高等学校で、講師として勤務できる方を募集しています。ご連絡をおねがいします。

連絡先：いわき教育事務所 管理担当 24-6216